

Toyo Eiwa-The World Commentary は、タイムリーに世界情勢を分析し、公共の理解に資するためのプラットフォームです。このコメンタリーは、著者の意見であり、東洋英和女学院大学の意見を反映するものではありません。

お問合せ E-Mail : kokusaiken@toyoeiwa.ac.jp

【G7 シリーズ】ゼレンスキー大統領と G20

河野 毅（国際社会学部 教授）

フランス政府手配の航空機から広島に降り立った時からウクライナのゼレンスキー大統領は、お馴染みのカーキ色軍服で、G7首脳と招待国首脳との会談をこなし、G7 諸国からの軍民支援を取り付けた。原爆犠牲者の御霊へ献花し、記者会見では、原爆資料館の展示「人影の石」を引用しつつ、平和を訴えた。

ただ、この平和の訴えの裏には G20 への働きかけというゼレンスキー大統領の重要なアジェンダがあり、その結果今年の G20 の議長国インドのモディ首相との面談が実現した。G20 は G7 に加え成長する中進国を含めた 19 カ国+EU が加盟し、加盟国の経済規模は世界の GDP の約 85%を占める。

インドは、ロシアによるウクライナ侵略を非難した国連総会決議では2度棄権し、中立的だ。Indian Express 紙によると、ゼレンスキー大統領との会談で、モディ首相はこれまで繰り返してきたウクライナへの人道支援の重要性を述べたのみで、ゼレンスキー大統領がロシアとインドの関係に楔を打つことはできなかったようだ。

ゼレンスキー大統領の目標は G20 の中でロシアを孤立させることだ。昨年の G20 議長インドネシアのウイド大統領はキーウを訪問し、G20 首脳会談ではゼレンスキー大統領を招待している（同大統領はビデオで演説、一方プーチン大統領はラブロフ外相が代行出席）。今の争点は、インドのモディ首相がキーウを訪問するか、そして9月のG20サミットにウクライナを招待するかだ。来年の議長はロシアのウクライナ侵略を国連の場で非難したブラジル



©Ministry of Foreign Affairs of Japan/ AFP

のルラ大統領であるが、広島では両者の「時間の都合で」首脳会談が実現しなかったという。

ここで見落とせないのは、インドネシア、インド、ブラジルの背後にはもう一つの G20 の大国、中国がいる事だ。文言の差はあるが、中国含めこの3国は、クリミア半島含むウクライナ領土からのロシアの完全撤退を明示的に出さない「停戦」を呼びかけており、これはウクライナと G7 にとっては受け入れられない内容だ。

G7 の世界に占める経済規模はかつての 7 割から 4 割へ相対的に縮小する一方、G7 の比較優位は世界軍事支出の 39%を占める米を背景に、G7 合計で 50.6%に上る軍事支出とその高い技術力である。これを追うように第 2 の軍事大国中国は世界の軍事支出の 13%を占め、ロシアは 3.9%、ロシアの武器を買うインドは 3.6%となり合計では 20.5%となる。

ウクライナ戦争はさらに激化し、同時に外交では G20 がその戦いの舞台だ。ウクライナ戦争の終わりが見えない中、世界の武装化と分裂した G20 という現実を前に、広島発の平和の願いは霞んでいく。